

- スズキ、「ハスラー」「ワゴンR」・マツダOEM「フレアクロスオーバー」「フレア」について、停車中にエンストする恐れがあるとしてリコール
エンジンコントローラのアイドリング時における吸入空気量の制御プログラムが不適切な為、Dレンジで停車中に吸入空気量が不足することがある。そのため、アイドリング回転数が低下し、最悪の場合、エンストする恐れがある。
19年12月24日～20年11月3日に生産した9万8587台
- フォードモーターカンパニー、「エクスプローラー」のドライブシャフトブラケットに不具合があるとしてリコール
フロント右ドライブシャフトブラケットにおいて、設計時の強度検討が不適切なため強度が不足。そのため金属疲労等によりブラケットが破損し、最悪の場合、ドライブシャフトが抜けて走行不能となる恐れがある。
13年11月1日～15年11月9日に生産した2086台
- BMWジャパン、BMW「X3 xDrive 20d」の低圧燃料ポンプに不具合があるとしてリコール
12年7月18日～17年8月21日に生産した1万0823台
低圧燃料ポンプの燃料成分に対する検証が不十分なため、日本仕様の燃料に含まれる成分が低圧燃料ポンプのジェローター（金属製圧送ギア）部分に付着し、堆積することがある。そのため、堆積物が抵抗となって燃料ポンプが作動不良となり、最悪の場合、アイドリングストップからのエンジン再始動ができなくなる恐れがある。
- トヨタ自動車、カムリ・ダイハツOEM「アルティス」のコンビネーションメータに不具合があるとしてリコール
21年1月13日～同年3月15日に生産した1212台
後席シートベルト非装着時警報装置において、コンビネーションメータ内の制御プログラムが不適切なため、ハイブリッドシステム始動時に後席乗員のシートベルト装着状態を誤検出する場合がある。そのため、後席シートベルト警告灯が正しく点灯せず、保安基準第22条の3（座席ベルト等の基準）に適合しない。
- スズキ、「ソリオ」「クロスビー」「イグニス」・三菱OEM「デリカD:2」の燃料タンクに不具合があるとしてリコール
20年7月3日～同年11月4日に生産した2WD車7802台。20年7月8日～同年10年9日に交換修理用部品として出荷され、組付けられた車両が特定できない9個も対象
燃料タンクの製造工程が不適切なため、ブリーザパイプが燃料タンクに適切に溶着されていないものがある。そのため、使用過程における車両振動等により溶着部が剥がれ、燃料を満タンに給油すると溶着部から燃料が漏れる恐れがある。
- マツダ、「MX-30」の助手席エアバッグに不具合があるとしてリコール
20年8月4日～同年11月24日に生産した2153台
助手席エアバッグの折り畳み方法が不適切なため、正しく折り畳みできていないものがある。そのため、衝突時にエアバッグが作動した際にバッグの縫製部が裂けて正常に展開せず、乗員保護性能が低下する恐れがある。
- ルノー・ジャポン、アルピノー「A110」等計3車種の燃料ポンプに不具合があるとしてリコール
18年2月1日～20年7月20日に生産した819台
燃料ポンプのインタンクユニットにおいて、樹脂製インペラとカバーのクリアランス設計が不適切なため、燃料温度の上昇によって樹脂製インペラが変形することがある。そのため、カバーと接触し、燃料ポンプモーターが作動不良となり、最悪の場合、走行中エンストに至る恐れがある。
- スバル、「XV」「フォレスター」のリヤスタビライザに不具合があるとしてリコール
17年4月21日～19年5月31日に生産した9万6560台
使用過程でリヤスタビライザのブラケットと車体を連結するボルトが緩み、取り付け部にガタが生じて異音が発生することがある。そのまま使用を続けるとボルトが脱落する可能性があり、最悪の場合ブラケットが周辺部品を傷つける恐れがある。
- ダイハツ、「タント」・スバルOEM「シフォン」のターボ車について、エンジン制御コンピュータ（ECU）に不具合があるとしてリコール
吸気管圧力センサの異常判定の設定が不適切なため、高地等の気圧の低い環境下で減速した際に誤ってセンサ異常を検出することがある。そのため、そのままの状態で使用を続けると、走行中にエンジン警告灯が点灯するとともにESCが作動しなくなる恐れがある。
20年12月3日～21年2月19日に生産した9728台
- スズキ、「ジムニー」「ジムニーシエラ」（JB64/JB74）のフロント/リアガラス接着に不具合があるとしてリコール
20年8月7日～20日に生産した101台
前面ガラスと後面ガラスの接着工程で接着するための下塗り剤（プライマー）塗布が不適切であったため、ガラスの接着力が弱いものがある。そのため、水漏れが発生し、最悪の場合、ガラスが接着剤から剥離して脱落する恐れがある。
- 日野自動車・いすゞ自動車、「レンジャー」「ガーラ」等計14車種の排出ガス飛散防止装置に不具合があるとしてリコール
制御コンピュータの故障診断プログラムが不適切なため、故障時に正しく診断または警告表示できないものがある。そのため、保安基準第31条の細目告示第41条 別添48の車載式故障診断装置（ディーゼル重量車J-OBDDII）の技術基準を満足しない。
19年3月26日～21年1月14日に生産した5万6536台
- スズキ、「スイフト」（MT車）のアダプティブクルーズコントロール（ACC）使用時に先行車と衝突する恐れがあるとしてリコール
横滑り防止装置（ESC）コントローラにて、ACC使用時の制動制御プログラムに誤りがあることが判明。先行車へ接近する等の理由で減速が必要な際にESCによる制動制御が働かず、減速による車速調整ができない。そのため最悪の場合、先行車に衝突する恐れがある。
20年4月8日～21年4月8日に生産した5245台